

飛躍

第13号
2014年11月17日
この通信は生徒と保護者の皆様に向けて、編集・発行しています。

文化発表会を振り返って 2

A組

自分は指揮をやりました。最初のころは全然上手に歌えなかったり、ずれたりしてて指揮もなかなかうまくできなくて、イヤになってた時もありました。だけど、みんなで意見を言い合ったり、みんなでお互いをほめ合ったりしてうまくなっていきました。本番では直前はすごく緊張したけれど、台の上に登ってみんなを見たら今までにないくらいのやる気ができました。自分はこの2年A組のメンバーでCOSMOSという歌を歌えたことがうれしいし、何よりみんなが楽しいとか同じような気持ちになって歌えたことが幸せです。いろいろあったけれど、自分の人生一度きりの中2の文化発表会。とても良い思い出になりました。

H組

2Hは練習のとき、男子の声が全然でていなくて、他のクラスからも男子がきこえないと言われていて、正直大丈夫かな？と思っていました。帰りのST後の練習のとき、2Hでもめることもありました。でも次の日はみんなで歌うことができました。徐々にみんなのやる気も出てきて男子の声も日に日に出てきて練習が楽しくなりました。そして本番。2H全員はそろえなくて残念だったけど、男子も声が出ていて女子もいつもよりきれいな声で歌えて楽しかったです。伴奏のりさ、指揮のななみ、2人に感謝したいです。2人がいなかったらこうしてまとまった2Hの「心の中にきらめいて」はできあがっていませんでした。2Hで今まで練習できて楽しかったです。

G組

最初は声が出ていなかったり笑ったりしたり、やっとみんなが真剣に歌えた時、ふざけて歌詞をかえたりしてみんなを笑わせたりしたけど、みんなで意見などを言い合ってたところなどおして、練習を何度もしたら、最初のときよりもずーっとよくなってそのまま本番で歌ったら、今までの中で一番よく歌えたと思った。

E組

最初は全然ダメで「これ大丈夫なのかな」と思いました。男子の声がきこえない、女子の「ラ」の部分があわないなど、いろいろ不安がありました。でも係を中心に反省会などを何度もやりました。「このところはこうの方がいい」「もっと声を出してほしい」など、みんなで話し合いもして、だんだんと上手になっていくことがうれしく思いました。練習していくうちに男子の声が出るようになってたり、女子の「ラ」の部分がそろそろようになってたりとうれしいことがたくさんありました。でも学年最後の練習では、角谷先生を見返してやるうという気持ちで自分は当日の合唱にのぞみました。自分たちが歌っているときは、相手にどう聞こえているかわからなくて、後で聞いたところ「すごかったね!!」などうれしい言葉をいっぱいもらいました。今回の合唱で2Eの絆がグッと深まったのでうれしかったです。残り4ヶ月ぐらいしかないけど、もっと仲良くなれるようにしていきたいです。

学年集会より「学習法指南」

金原先生「英語の学習法」(抜粋)

まず音読。毎日音読をする。どれだけ忙しくても必ずやる。自然に暗記するくらいに読む。もちろん、意味をつかんだ上で。こつこつ勉強する。「3日前から勉強する」という人。県大会に出場する部活がいくつあるかと思いますが、3日前から練習して勝てるわけじゃないですね。

越野先生「好きこそものの上手なれ」(抜粋)

みなさんが興味を持っているものは、別に暗記しようとしなくても、問題集なんかなくても覚えることができますよね。まずは好きになることが大切です。

番外編「30年前の学習法」

- ① 授業中に先生の話を一言ももらさずに聞く。(父に言われました。)授業の延長が定期テストです。
- ② 一度わかったと思ってそれで満足せず、間違え入れずに同じような問題にチャレンジする。
- ③ まず、わからないところは限界まで考える。それでもわからない場合はわかるまで質問する。(テスト前に慌てて聞くのではなく、日頃から。)授業中にさぼっていて、「最初から教えて」は×。授業中に無理なら、放課などに先生に聞きに行き、質問攻めにする。(1人で行きましょう)わかるまであきらめずとにかくねばる。高校で数学が全然わからなくなったときにやりました。このときの悪い生徒に数学の先生は毎日つきあってくれました。本当に感謝しています。
- ④ 苦手な教科から逃げない。…よく苦手な教科をさけて、得意な教科ばかり勉強する人いますよね。はっきり言います。「その学習法は危険です。」得意教科がある反面苦手な教科もある。これはだれでもそうだと思いますが、それを個性のように思うのは間違っています。まずは一番苦手な教科を叩きましょう。得意な教科はある程度点がとれていますから、伸びはあまり期待できません。苦手な教科を伸ばすことがあなたの伸びにつながります。